

二〇〇五年春、レキシントン町エスタブルック小学校で幼稚園児の父親デイヴィッド・パーカーが「同性の両親がいる家族」を紹介する本とクラスのディスカッションに抗議し、学校と警察の説得にもかかわらず立ち去りを拒否、不法侵入罪で逮捕される事件があった。*註1だが、関係者の証言から、このショッキングな事件が決して偶発のものではなく、逮捕された父親自身の策略だったことが明らかになってきた。

☆☆☆

私の娘が通っていたころのエスタブルック小学校は、アジアのみならずヨーロッパ諸国や中近東からの移民の子が多く、国際的で和氣藹々とした雰囲気であった。それぞれがお国自慢の料理を持って集まるインターナショナル・ポットラックディナーでは折り紙指導やインドのダンスなど家族ぐるみの交流があり、同性カップルの母親がPTAの副会長を務め、都市部からのマイノリティの生徒を放課後にボランティアで指導する教師が地域で最も多い、という「反偏見」を重視するコミュニティが確立していた。

私はコミュニティの調和を重視するエスタブルック小学校の特性を知っているがゆえに、小学校が父親の要望を頑なに退けて警察に逮捕を要請したというパーカーの言い分に疑いを抱いたのである。

☆☆☆

事件に詳しい学校や警察関係者からの情報からは、この逮捕劇が、パーカーが同性結婚の合法化に反対する「Article 8 Alliance」の手を結んで仕組んだ《反同性愛》キャンペーンであり、エスタブルック小学校、レキシントン公立学校、レキシントン警察は、彼らが宣伝に利用した道具に過ぎなかったことが推察できる。*註2

パーカーは「幼稚園児の父親の逮捕・拘留」という衝撃的なタイトルをマスコミが無視する筈はないと知っていたので、まずエスタブルック小学校校長と公立学校の代表者との会議中に宗教保守派の「Article 8 Alliance」と連絡を取り、逮捕の場面を写真とビデオで記録させた。そして、こくわずかな保釈金を払わずに拘留されることを選び、「Article 8 Alliance」から地方の報道局に釈放の時間と場所を連絡させたのである。

残念ながら、パーカーの策略は大成功だったというしかない。地方のニュース番組は「Article 8 Alliance」からの連絡に応じて釈放の場面を繰り返しニュースで流し、その夜には地方と提携している全国版のニュース番組がこの事件を報道した。このセンセーショナルな話題をポスターングロープ紙の特集や、ABC、CNN、FOXの人気番組が次々

☆☆☆

に取り上げたために、瞬く間にエスタブルック小学校事件は全国的な論争の的になった。特に、極端に保守的なFOXの「The O'Reilly Factor」がパーカーを英雄的な父親として招待した直後は、パーカーに同意するサイトが雨後の竹の子のように現れ、以前にはGoogleで二十程度しかなかった「エスタブルック小学校」の検索結果は、数千から数万に膨らんだ。このようにして、一般人から支持されやすいようにパーカーがわざと簡潔に歪めた「学校での行き過ぎた同性愛教育を拒否する権利は親にある」というメッセージは瞬く間に全米のみならず海外にまで広がり、校長や教育長のもとには毎日数百の嫌がらせメールが届き、深夜に海外から脅迫電話までかかるようになった。

プロフィール

わたなべ ゆかり・1960年兵庫県生まれ。京都大学医療技術短期大学部卒、同大学部専攻科修了。京都大学医学部付属病院に三年間勤務。その後ロンドン留学、日本語学校のコーディネーター、医療製品製造会社勤務などを経験。2001年、『ノティアーズ』で第七回小説新潮長篇新人賞を受賞。2003年、二作目『神たちの誤算』を発表。現在はポーストン郊外レキシントン市で夫と娘の三人暮らし。翻訳やエッセイ執筆の日々を送る。

- 註1 下記の「エスタブルック事件参考サイト」、『たからまがじん』2007年10月号・11月号をご参照ください。
- 註2 これらの推察は、レキシントン公立学校と警察関係者のオフレコの情報をもとにして、表現を避けています。
- 註3 オランダ原作の子供用の絵本。母親から早く結婚するよう迫られている王子が、候補の美しい姫君たちを退けて他国の王子と恋におち、結婚するという物語。

エスタブルック事件参考サイト

- 【Lexington C.A.R.E.S.、レキシントン公立学校教育長、レキシントン検察長による共同声明】<http://www.lexingtoncares.org/LSPressRelease2005-05-02.pdf>
- 【Lexington C.A.R.E.S. による記事】
HYPERLINK "<http://www.lexingtoncares.org/LearnTheFacts.html>" <http://www.lexingtoncares.org/LearnTheFacts.html>
- 【Article 8 Alliance による記事】
HYPERLINK "http://www.article8.org/docs/news_events/parker/main.htm" http://www.article8.org/docs/news_events/parker/main.htm



バトルグリーン／連載エッセイ 8

渡辺 由佳里

BATTLE G

エスタブルック事件の策略

に取上げたために、瞬く間にエスタブルック小学校事件は全国的な論争の的になった。特に、極端に保守的なFOXの「The O'Reilly Factor」がパーカーを英雄的な父親として招待した直後は、パーカーに同意するサイトが雨後の竹の子のように現れ、以前にはGoogleで二十程度しかなかった「エスタブルック小学校」の検索結果は、数千から数万に膨らんだ。このようにして、一般人から支持されやすいようにパーカーがわざと簡潔に歪めた「学校での行き過ぎた同性愛教育を拒否する権利は親にある」というメッセージは瞬く間に全米のみならず海外にまで広がり、校長や教育長のもとには毎日数百の嫌がらせメールが届き、深夜に海外から脅迫電話までかかるようになった。

レキシントン町でも「同性愛なんて話題を小学校で教えないで欲しい」という意見を、特にアジア系の親から耳にしたが、大部分の子の意見は、「全ての子

供を平等に扱うという学校の対応は正しい。宗教的倫理に沿った教育を求めるのであれば、それを与えてくれる宗教系の私立学校に送ればよい」というものであった。しかし、冷静な町の対応にもかかわらず問題はそう簡単に解決の方向には向かわなかった。不法侵入罪の被告であるパーカーが、マスコミを使ったPR作戦を展開する一方で法的な反撃に出たのである。

最初の事件から約一年後、エスタブルック小学校反偏見委員の教師が二年生の授業中に生徒の要望で「King and King」*註3という絵本を読んだことに対し、パーカー夫妻はもう一組の夫婦と共同で、レキシントン町、エスタブルック小学校の校長、教師、教育長、教育委員、教育指導長、保健コーディネーターを訴えたのである。訴訟の理由は、親が非倫理的だとみなす《生活習慣（同性愛および同性カップル）》を子供に教え込み、州の法律を破り、親の人權を侵害したというものであった。

この不安定な状況は、町民の感情をも不安定にし、潜在していた不満を噴出させるきっかけになったようである。最初は学校を全面的にサポートしていた町民の間に「King and King」を読んだ教師に対して「なぜこんなときに扇動的なことを？」という反感が生じ、成績を重視する父兄は学校への不満を口に、これまで沈黙を守っていた信心深いキリスト教徒たちが公立学校のようにべラルな環境に不満を訴えるようになったのである。（次回につづく）

訴訟の直前に就任した教育長のポール・アッシュは、エスタブルック事件には直接関わっていなかったのだが、即座に「学校は違法なこと

は何もしていない」という声明を出し、地方裁判所に訴訟の却下を求めた。法的根拠がないためにパーカーが裁判に勝つ可能性はほとんどなかったのだが、訴訟が町と学校に与えた影響は大きかった。まず、いったん訴訟になると法的な手続きが必要になり、町は費用を負担しなければならなくなる。また、訴訟に対応するために校長たちが業務に割く時間が大幅に削られる。マスコミへの対応も無視することができない。その結果、特殊教育を必要とする生徒を含め生徒全員が十分な対応をもらえず、かつてMCASで常に州の上位にランクされていたエスタブルック小学校の順位は下降した。

この不安定な状況は、町民の感情をも不安定にし、潜在していた不満を噴出させるきっかけになったようである。最初は学校を全面的にサポートしていた町民の間に「King and King」を読んだ教師に対して「なぜこんなときに扇動的なことを？」という反感が生じ、成績を重視する父兄は学校への不満を口に、これまで沈黙を守っていた信心深いキリスト教徒たちが公立学校のようにべラルな環境に不満を訴えるようになったのである。（次回につづく）

レキシントン町でも「同性愛なんて話題を小学校で教えないで欲しい」という意見を、特にアジア系の親から耳にしたが、大部分の子の意見は、「全ての子

供を平等に扱うという学校の対応は正しい。宗教的倫理に沿った教育を求めるのであれば、それを与えてくれる宗教系の私立学校に送ればよい」というものであった。しかし、冷静な町の対応にもかかわらず問題はそう簡単に解決の方向には向かわなかった。不法侵入罪の被告であるパーカーが、マスコミを使ったPR作戦を展開する一方で法的な反撃に出たのである。

最初の事件から約一年後、エスタブルック小学校反偏見委員の教師が二年生の授業中に生徒の要望で「King and King」*註3という絵本を読んだことに対し、パーカー夫妻はもう一組の夫婦と共同で、レキシントン町、エスタブルック小学校の校長、教師、教育長、教育委員、教育指導長、保健コーディネーターを訴えたのである。訴訟の理由は、親が非倫理的だとみなす《生活習慣（同性愛および同性カップル）》を子供に教え込み、州の法律を破り、親の人權を侵害したというものであった。

この不安定な状況は、町民の感情をも不安定にし、潜在していた不満を噴出させるきっかけになったようである。最初は学校を全面的にサポートしていた町民の間に「King and King」を読んだ教師に対して「なぜこんなときに扇動的なことを？」という反感が生じ、成績を重視する父兄は学校への不満を口に、これまで沈黙を守っていた信心深いキリスト教徒たちが公立学校のようにべラルな環境に不満を訴えるようになったのである。（次回につづく）

